

**2. 大学院と現場との循環システムの成果と残された課題**

**3) 「ケースメソッドを通じた循環」**

# ケースメソッドを通じた循環

日本福祉大学大学院  
医療・福祉マネジメント専攻  
運営委員 篠田 道子

## 1. ケースメソッドの実施状況と成果

ケースメソッドを大学院教育に導入するにあたって、すでに40年来の実績がある慶応義塾大学大学院経営管理研究科（以下、KBS）の高木晴夫先生、竹内伸一先生の協力を得た。KBS方式を導入しつつ、福祉分野におけるケースメソッドとは何かを、実践しながら模索してきた。また、質の高いケースメソッド教育には、ケース教材とティーチングノートを磨くことが重要と判断し、教材作りで定評のある、千葉大学教育学部の岡田加奈子先生が主宰するグループの助言を受けた。

3年間に実施した講義、ワークショップ、フォーラム、ケース教材の試運転は15回（27頁参照）にのぼり、なかでも試運転は5回実施した。その結果、本学大学院ケース委員会に登録されたケース教材は24ケースとなった。

数回に及ぶリライトと試運転を繰り返し、磨きをかけたケース教材は討論に耐えうるもので、大学院の授業だけでなく、学部授業、研修会等で使用し、最近では提携社会福祉法人等の現任教育や専門職連携教育のツールとして活用されている。

大学院の授業においては、医療・福祉マネジメント研究科1年生の基礎演習で4ケース、2年生の実践研究では11～13ケースを討論する。実務家教員の参加により活発な討論が展開されている。授業評価については、ケースメソッド研究会の協力を得て、詳細に分析し、授業の改善につなげられるよう取り組んでいる。これまでの授業評価を総括すると、多面的な分析力、問題解決力、情報統合力等はケースメソッドで鍛えられていると判断している。

## 2. 循環システムとしてのケースメソッド

- ①ケース教材の開発：実務家教員のフィールドを使った「現場発」のケース教材を開発。ケースライティング研修（2回）や試運転で、ライティング技術が向上し、2作目にも意欲的に取り組んでいる人もいる。ただし、リード役にチャレンジする人が少なかったのが残念である。
- ②大学院の授業に活用：実務家教員が作成したケース教材（2ケース）を使って、1年生の基礎演習を実施した。さらに実務家教員がリード役でファシリテーションスキルを披露するなど、院生のロールモデルとしての役割を担った。

- ③所属施設との協働開催によるケースメソッドの広がり：実務家教員の所属する法人や研究会、提携社会福祉法人などと協働で、ケースメソッドを活用した研修を行った。今年度は単発的な研修に留まっていたが、2010年度以降は、法人の現任教育の一環としてケースメソッドを導入する動きがあり、今後の広がりに期待したい。
- ④ケースメソッド研究会の設立：2009年3月にケースメソッド研究会を設立した。本会の目的は、ケース教材の開発、ケースメソッドに関する研修・セミナーの企画・運営、ケースメソッドに関する研究と情報提供である。多くの実務家教員の加入があり、2010年2月末日現在の会員数は42名である。大学院GP終了後の受け皿として、今後活動を強化していきたい。

### 3. 今後の課題

- ①福祉領域におけるケースメソッドの確立：ケースメソッド研究会を通して、ケース教材開発、ディスカッションリードやボードライティングのスキルアップ、ケースメソッドの教育評価に取り組む。授業評価では、専門職の価値観の対立が起りやすいケース教材では、モヤモヤ感が残りやすいため、フィードバックを手厚くしたり、少人数によるピアレビューが効果的であると分析している。KBS方式を学びつつも、福祉領域におけるケースメソッドについて引き続き検討していく。2010年度は「福祉領域におけるケースメソッド教育ガイドブック（仮称）」の執筆に着手する。
- ②良質なケース教材の共同開発：ケースメソッド教育はケース教材の質に左右されるといっても過言ではない。これからも安定的にケース教材を開発するには、実務家教員の協力が不可欠である。また、福祉経営分野の教材が不足しているため、マネジメントを担っている実務家教員による教材開発をお願いしたい。また、ケースライティングは無理であるが、取材や資料提供だけでも大歓迎である。ケースメソッド研究会を通して、ケース教材を募集し、試運転～リライト～登録までを支援していく。
- ③現任教育におけるケースメソッド：所属する法人・事業所等と協働でケースメソッドを活用した研修を行う動きが出てきている。ディスカッションを通して、分析力、洞察力を磨くと共に、連携力を育成し、専門職連携教育の一環としての広がりを期待したい（大学院と福祉現場が協働で行う人材養成の可能性として）。
- ④ケースメソッド授業の活発な展開：基礎演習（1年生）、実践研究（2年生）でケースメソッドを実施しているが、高度専門職業人のロールモデルとなる実務家教員やケースメソッド研究会員の参加を呼び掛ける等、討論を豊かにするための仕掛けを考えていく。

2007年度～2009年度 ケースメソッド教育に関する取組

	イベント名	開催年月日	区分	主催	備考
1	ケースメソッド教授法特論	2007.9～11	研修	慶応義塾大学大学院 経営管理研究科	慶応義塾大学大学院経営管理研究科へ 本学教員2人の派遣
2	「ケースメソッド教授法」勉強会(対象:教員)	2007.11.15	研修会	日本福祉大学大学院	講師:松澤佳郎氏 (慶応義塾大学SFC研究所 上席所員)
3	「ケースメソッド授業とは」(対象:院生)	2007.11.30	授業	日本福祉大学大学院	講師:松澤佳郎氏 (慶応義塾大学SFC研究所 上席所員)
4	「ケースメソッド演習」試行実施(対象:院生および教員)	2008.11.11	授業	日本福祉大学大学院	講師:篠田道子(本学教員) 講師:山口智子(本学教員)
5	ケースメソッドで学ぶ退院支援	2008.2.16 2008.3.1	公開研究会	日本福祉大学大学院	講師:篠田道子(本学教員)
6	ケースメソッド授業とケース教材	2008.3.4 2008.3.13	シンポジウム	慶応義塾大学大学院 経営管理研究科 日本ケースセンター	慶応義塾大学にて開催 実務家教員参加
7	ケースライティング研修会Ⅰ	2008.3.22 2008.3.23	研修会	日本福祉大学大学院	講師:岡田加奈子氏(千葉大学教育学部准教授)、竹鼻ゆかり氏(東京学芸大学教育学部准教授)、三村由香里氏(岡山大学教育学部准教授)
8	ケースライティング研修会Ⅱ	2008.5.24	研修会	日本福祉大学大学院	講師:松澤佳郎氏 (慶応義塾大学SFC研究所 上席所員)
9	ケース教材の試運転①	2008.8.10	試運転	日本福祉大学大学院	6ケース使用
10	大学院GP実務家教員の実践状況と課題に関するワークショップ	2008.10.4	ワークショップ	日本福祉大学大学院	「ケースメソッドについて」 発言者:篠田道子(本学教員)
11	公開フォーラム 「高度な専門性を備えた福祉現場の人材養成を目指して —大学院と福祉現場によるサミット—」	2008.10.5	フォーラム	日本福祉大学大学院	第2分科会「ケースメソッド活用の可能性と課題」 発言者:角谷勝己氏(実務家教員)
12	高度専門職業人に求められる実践力の養成方法 「ケースメソッドの意義と教育効果」&ケース教材の試運転②	2009.3.7	フォーラム& 試運転	日本福祉大学大学院 ケースメソッド研究会	講師:竹内伸一氏(慶応義塾大学経営管理研究科特別研究 講師、ケースメソッド研究所代表取締役) 3ケース使用
13	公開講演会「ケースメソッド講演会」	2009.6.27	フォーラム	日本福祉大学大学院 ケースメソッド研究会	講師:岡田加奈子氏(千葉大学教育学部教授)
14	ケース教材の試運転③	2009.6.27	試運転	日本福祉大学大学院 ケースメソッド研究会	講師:岡田加奈子氏(千葉大学教育学部教授)、竹鼻ゆかり 氏(東京学芸大学教育学部准教授)、三村由香里氏(岡山 大学教育学部准教授)、鹿野裕美氏(宮城大学看護学部講師)
15	ケース教材の試運転④	2009.11.14	試運転	日本福祉大学大学院 ケースメソッド研究会	3ケース使用
16	ケース教材の試運転⑤	2010.3.6	試運転	日本福祉大学大学院 ケースメソッド研究会	3ケース使用

## 日本福祉大学 ケース教材一覧(H20.04～H22.03)

No.	原著者	タイトル	頁数	試運転	講義・演習等での使用
1	宇佐美 千鶴	忍び寄る悪質商法の手	10	H20.8	H21.6 福祉サービスM概論
2		不毛な会議	7	H22.3	
3	越後 美由紀	児童虐待の「疑い」のある事例への見守りに悩む保育士	8		
4	角谷 勝己	誰も働いていない	2	H20.8	
		働かない生活	2	H20.8	
5	木村 圭佑	訪問リハビリで働き始めたスタッフの悩み	9		
6	小山 美代	仲間の輝かしい自立生活を実現したい —新しい時代の作業所を創る代表者の苦悩—	10	H20.8	H20.9 通信スクーリング H21.5 社会福祉学部
7	鈴木 岸子	私たちの人権は？ —利用者と訪問介護員の間でトラブルが発生した事例を通して—	9	H20.8	H20.12 福祉M実践研究
8	東久保 浩喜	麻酔科医の要望にどこまで応えるか —わたしたちは間違っていたのだろうか—	8		
9	成田 光江	事業が継続できない —地域における他職種チームの運営管理—	5		
10	新名 雅樹	成年後見人としての支援—誰が彼を支えるのか—	12	H21.11	
11		成年後見制度利用をどうするのか—1	8	H22.3	
12	萩原 浩史	地域交流に住民から「待った」が掛かった！ —精神障害者施設が行う地域交流—	7	H21.11	
13	秦 道代	今日で透析を終わりにします	9		H21.5 社会福祉学部
14		注射を失敗したら、げんこつが…？！	9	H21.6	
15	林田 貴久	あや子さんに対する関わりの悩み	8	H21.3	H21. 9 鹿児島県老人施設協会
16	堀内 浩美	施設入所している知的障害者を家庭に帰したい —児童と家族のニーズの違い—	5		
17		子どもの進路を決めるのは誰？	7		
18	松崎 倫子	出生前診断をめぐる夫婦・病院関係者の意向の違い	8	H20.8	H20.11,H21.10 福祉M実践研究 H21.5 社会福祉学部
19		実習中に施設内虐待を見た	7	H22.3	
20	山内 哲也	てんかん薬を飲ませ忘れた！！	12	H20.8 H20.10	
21	山本 さやこ	介護サービス事業における職員教育	5	H21.9	H21.11 基礎演習
22	渡辺 大輔 中島 民恵子	増え続ける記録	7	H21.3	
23		新米グループホーム管理者遠山直美	8	H21.3 H21.6	
24		予期せぬ行動に振り回されるケアマネジャーの悩み	9	H20.5	H20.11 福祉M実践研究